

「日本の復興のために学術ができること-政治学の観点から-」

主催：日本学術会議政治学委員会

慶應義塾大学多文化市民意識研究センター

- ◆日時：平成23年5月23日(月)14:00~17:00
- ◆会場：慶應義塾大学三田キャンパス東館 6Fラボ
東京都港区三田 2-15-45

◆企画主旨：

2011年3月11日の大震災・大津波と、それによる原子力発電所の事故は、東北地方沿岸部に壊滅的な被害をもたらし、多数の住民の生活基盤を根底から破壊すると共に、首都圏を含む東日本一帯に、電力不足や放射能汚染等の強い不安を及ぼしている。本シンポジウムは、この東日本大地震に対して学術が何をなすことができるのかを政治学の観点から討議するとともに、今後のあり方について具体的な緊急提言を行うことにしたい。

◆プログラム：

主旨説明：小林良彰(慶應義塾大学教授、学術会議会員・1部長・政治学委員会委員長)

報告者：林久美子(民主党参議院議員、文部科学大臣政務官)

「子供の教育のケアと男女共同参画による復興」

猪口邦子(自民党参議院議員、学術会議会員・政治学委員会副委員長)

「世界の中の日本の復興—教育・学術の観点から—」

石川幹子(東京大学教授、学術会議会員、環境学委員会副委員長)

「ペアリング支援について」

佐々木信夫(中央大学教授、学術会議連携会員・政治学委員会委員)

「垂直的・水平的自治体連携について」

討論者：森田朗(東京大学教授・日本行政学会理事長)

杉田敦(法政大学教授・日本政治学会理事長)



連絡先：慶應義塾大学多文化市民意識研究センター

担当：田引 (FAX 03-3705-4530)